

語使用になるため、親子のコミュニケーションに支障を来たしている。一見すると、これは移民児童が母語ではなく日本語を選択して学習しており、日本社会には望ましい状況のように見えるかもしれない。しかし、このような状況は、二つの文化にまたがった健全なアイデンティティを育てる上でも、また日本語を学習言語・学校言語とする公立小中学校で高度の日本語を習得して、年齢相応の学力を獲得する上でも大きな支障となるものである。[3][4]

継承語教育のニーズは子どもが移動する年齢と世代によって異なる。言語形成期後半（9/10歳以降）に移動する「1世児」は、母語がすでに確立されているため学習言語が変わっても母語喪失の危険性は少ない。親の母語が1世児自身の母語でもあり、母語による読み書きの補強をすれば母語と現地語のバイリンガルとして育つ。一方言語形成期前半（9/10歳以前）の「1世児」や現地生まれの「2世児」は、母語が十分育たず現地語が生活言語であると同時に学習言語になるため、放置するとつぎのいずれかになる危険性がある。

(1) 「会話型バイリンガル」（読み書きは現地語のみ、会話は両言語）

(2) 「聴解型バイリンガル」（読み書きは現地語のみ、聞いて理解するが話すのは現地語のみ）

(3) 「現地語モノリンガル」（現地語しか使えない）

(4) ダブル・リミテッド（どちらの言語も年齢相応のレベルまで育たず学習困難に陥る）。

(2)、(3)が陥る親子のコミュニケーションの断絶による情緒不安定、帰属意識のゆれ、また教育上明らかにマイナスである(4)を回避するためにも、継承語教育によって「読み書きも両言語のできる高度バイリンガル」を育て、ホスト国、ホーム国の両方で活躍できる有用な人材を育てたいものである。

継承語教育の文献の所在とその質は国によって異なる。継承日本語教育の長い歴史を持つのは、中南米と北米の一部（例：ハワイ州、カルフォルニア州、ブリティッシュコロンビア州）であるが、子どもが文盲にならないようにという配慮から村の長者が子どもに読み書きを教えるという実践に端を発している。その後時代とともに地域の「日本語学校」として組織化されていくが、いずれも零細な寺子屋式の塾的なものであり、研究の対象になることはほとんどなかった。

1960年代になると、日本企業の海外進出に伴って海外子女対象の「全日制日本人学校」と「補習校」が世界各地に設立された。「全日制日本人学校」は母語・継承語保護学校であり、「補習校」は週末継承語プログラムである。両者とも日本への帰国を前提にしたものであるが、

現在は永住予定の子どもが混在するようになり、文科省制定のカリキュラムをこなすことが困難を極めている。従来「海外帰国子女教育」という観点からの研究が多かったが、最近特に北米やEU諸国で継承語教育の観点からの補習校教育研究が増えている。

継承語教育一般に関する文献が豊富なのはカナダと米国である。カナダでは、継承語教育の教育的意義付けが1970年代に始まり、多様文化主義法のもと教育委員会支援の週末継承語プログラムが今でも開かれている。[5]一方、米国では、国防政策の一貫として外国語に堪能な人材が必要とされるようになり、その関係で2000年ごろから即戦力を持つ継承語学習者が急に注目を浴びるようになった。現在、継承語教育に対する研究と実践がもっとも盛んである。[6][7]

国内においては、母語保持・伸長の必要性は認識されつつあるが、その制度上の位置づけはこれからである。現時点では、専門的に追求する研究者も研究機関も不在である。この空白を埋める役割を担ってきたのが「母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）研究会」である。2003年に設立以来、MHBは、年次大会、研究集会、紀要発刊、オンラインディスカッションを通して、補習校児童生徒、日系人児童生徒教育、国内のオールドカマーの民族語・民族文化教育、ニューカマーの母語・継承語教育、ろう児の母語（手話）教育の課題と取り組んできた。本プロジェクト「継承語教育文献データベースの構築」は、MHBが形成してきた国内および世界各地の会員（約450名）をフルに動員して行うものである。

本稿では、(1)プロジェクトの目的と意義を明らかにするとともに、(2)プロジェクト内でどのようなデータベースを作成しようとしているのか、(3)現在の進捗状況と最終形態について報告する。

2. 目的

当プロジェクト[8]の目的は、(1)継承語教育の先進国であるカナダ、2000年以降目覚ましい隆盛を見せている米国、日本人の集団移住先である南米諸国、国内のオールドカマー、ニューカマーを中心に重要文献を収集、整理、統括してデータベース化し、母語・継承語・バイリンガル教育研究者・教育関係者に学会ホームページ上で公開提供すること、(2)上記の作業を通して、継承語教育の専門家や、質の高い継承語教師の育成に寄与すること、の2点である。文献収集に当たっては、国内外の母語・継承語・バイリンガル教育研究会会員から協力者を募り、現在調査協力者として、世界6地域（アジア、中南米、オーストラリア、カナダ、米国、

EU)、24ヶ国、11言語の65名が現在これに当たっている。加えてMHBの理事9人が調査責任者として調査協力者の統括に当たっている。

文献の収集は、現在次の5つの課題を掲げて行っている。

1. ホスト国の言語政策

日本語以外の言語も含んだ継承語全般に対してホスト国がどのような言語政策・施策を持っているか。

2. 歴史的経緯

歴史的にどのような経緯で現在に至っているか。

3. 現在の継承語教育

現時点で特定の地域(国・地域・対象グループ)の継承語教育は、どのような状況にあるか。

4. 継承語教育の成果

継承語教育の成果がどのくらい上がっているか。

5. 将来の課題

継承語教育の将来の課題は何か。

3. データベース作成手順

継承語教育データベースは次のような11段階の手順で製作する。

(1) 仮テンプレートの作成

まず、データベースに含める項目を決定する為に、エクセルで仮テンプレートを作成した。データベース作成作業開始時には、データベースに含める項目の全体像が不明であったため、想定できる資料の種類を以下の5種類に大別し、それぞれについて一つのテンプレートを作成した。このテンプレート作成作業を通じて入力項目を仮決定した。

Template 1. 著書・論文、

Template 2. 口頭・ポスター発表、

Template 3. 教科書・教材・ソフト・作品等、

Template 4. 雑誌・新聞記事、

Template 5. 政府刊行物・法律・条例・(公的)ガイドライン・スタンダード・カリキュラム・学習指導要綱)

(2) 仮テンプレートへの入力

エクセルで作成した仮テンプレートに65名のMHB研究会会員が入力を行う。

(3) 仮テンプレートへの入力項目のチェック

入力した結果を9名の統括者がチェックをして、ルールから外れた入力が行われていないかを検討する。

(4) 仮データベースの稼働

入力チェックを経たテンプレートをデータベースシステムに流し込み、情報がテンプレートからデータベースに移設できるかどうかを確認する。

(5) 作業用テンプレートの完成

現行の入力ルールに従って入力されたデータがデータベースに移設ができることを確認できれば、仮テンプレートを作業用テンプレートとして完成したものとみなす。完成したテンプレートは、(7)以降の段階で入力作業を行うMHB作業部会員限定で公開される。

(6) 入力マニュアルの作成

入力作業を行うMHB会員向けに入力マニュアルを完成させる。illegalな入力が行われないようにするためには入力マニュアルが適切であることが重要である。そのため入力マニュアルの作成作業には細心の注意を払う。

(7) 一部入力済みのテンプレートをskydriveに収納

仮テンプレートを経て完成版となったテンプレートをウェブ上の文書共有システム(skydrive, google document等)上にアップロードする。

(8) MHB作業部会員によるデータ入力

文書共有システム上に置かれた完成版テンプレートに、会員が世界中からアクセスをして入力し、データのエントリー数を増やして行く。

(9) 神戸大学継承語データベースに流し込む

次にテンプレート上の情報をデータベースに移設する。入力が終わったテンプレートをデータベースに流し込み、データベースを作成して稼働実験を行う。データエントリー数がどの程度になればデータベースへの移設を行うかはまだ未定である。

(10) データベースの稼働

10段階の最後はデータベースの稼働である。この段階で不具合が出た場合は、再び(3)から(9)の段階をたどる。

(11) ウェブインターフェースを持たせる

データベースの入力をウェブ経由で行えるようにする。

4. テンプレートに含む入力項目

作成を計画しているデータベースの中の情報は3つあり、文献情報、書き下ろしの解説からなる概要データベース、および全文である。少なくとも文献情報と概要データベースを含んだ

データベースの作成を目標としている。著作権を侵害しない範囲において、アブストラクト、フルテキストを掲載する。

著作権の問題がクリア出来れば全文を所収したデジタルアーカイブにまで発展させたい。全文情報の所収が出来ない場合は、全文にたどり着く為のリンク情報を含める予定である。

5. 継承語教育文献データベースシステム

継承語教育文献データベースシステムは、著書・論文、口頭・ポスター発表、教科書・教材・作品の3つの対象を格納するデータベースシステムとして構成されている。このシステムの特徴は、協力者によってデータベースが構築できるようにデータ収集の基本を Web アプリケーションとしている事である。従来なら、既に設計された ID のテーブルや各項目の定義域などが用意されており、どのような分類がなされるかも既知であるとされるが、このような特殊な文献データベースの場合、現時点ではデータの広がりや予測する事ができないため、幾つかの部分で、動的に対処する必要がある。図1に Web による著書・論文編集システムの入力画面(部分)を示す。

(1) 入力項目の動的管理

図2に対象言語の入力部分を示す。対象言語として「言語の特定なし」も含めて8つの言語の選択肢を用意してあるが、これ以外のもので登録された場合、その頻度に応じて、次の入力表示には項目として出現するように配置する。例えば現時点では「ドイツ語」、「フランス語」などである。これは、データベースに新しい項目が入力された場合、それを対象言語のインデックステーブルに登録して、次の入力システムが呼び出される際には、動的にその項目が選択肢に加わるようにシステムを構築する。

(2) 既存のデータによる入力支援と入力補完

重要な項目については、データ作成時に動的にデータベースを呼び出し、その入力する値の候補となるべきものを提示する事で、入力を簡便なものにする。例えば、図3は著者名を協力者が入力する際に、前方一致のインクリメンタルサーチが表示されているイラストである。このように、入力する候補をシステムから提示することで、入力を助けるのみならず、多くの協力者によるために発生する、タイプミスや入力文字のぶれ(旧字体を使用する、空白の挿入)をなくし、統一する事ができる。

実際、著者名は、新しい著者が入力された場合、インデックスに登録され、ID が割り当てられ、論文データとの関係はこの ID を外部キー

として参照する事で、正確さを高める事ができる。

(3) データの完成度の導入

このようなデータベースの場合、どの程度、各データ項目が確立したものであるかというのは、実際に資料として役立てる際には、重要なものとなる。そのため、図2の下にあるように備考欄を用いて、入力者、チェック者によって各データの完成度を記述するようにする。

6. 進捗状況

データの収集に関しては、これまで、調査協力者会議第1回(6月4日)、第2回(8月9日)を開催、第3回は、来年3月25日、27日の予定である。調査協力者を参加者としてヤフーグループを作成して連絡網としている。互いに情報交換を行って収集した文献は、Windows Live SkyDrive に貯蔵している。作業の進捗状況に合わせて、定期的にテンプレートのアップグレードをしていく予定である。現在は、テンプレート Version 1 の段階であり、Version 2 へのアップグレードは、12月初めに予定している。2009年11月現在、このテンプレートのアップグレード作業と平行して、エクセルファイルのデータを格納するデータベースを作っている段階である。

7. まとめと今後の展望

継承語教育文献データベースは文献データベースであるが、ネットワークの利点を活かして、関連 URL による原著に対するリンクや著作権の問題が発生しない原著のデジタル化も視野に入れて準備されている。今後はデータベースに、既存のデータによる入力支援やプルダウンメニューを付加していく計画である。

参考文献

- [1] 佐々木倫子(2003)「3代で消えない JHL とは?—日系移民の日本語継承」『母語・継承語・バイリンガル教育研究会』プレ創刊号 12-21
- [2] 中島和子(2003)「JHL の枠組みと課題—JSL/JFL とどう違うか」『母語・継承語・バイリンガル教育研究会』プレ創刊号 1-11.
- [3] 湯川笑子(2006)「年少者教育における母語保持・伸長を考える」『日本語教育』128. 13-23.
- [4] 中島和子(2007)「外国語習得と母語との関係—セミリングル現象の要因と教育的処置

- に関する基礎的研究」科学研究費補助金基礎研究（B）最終報告
- [5] カミンズ・ダネシ（中島和子・高垣俊之訳）(2005)『カナダの継承語教育- 多文化・多言語主義をめざして』明石書店
- [6] Brecht, R.D., & Ingold, C.W. (1998). *Tapping a National Resource Heritage languages in the United States*. ERIC Digest, EDO-FL-98-12.

- [7] Brinton, M.D., Kagan, O., & Bauckus, S. (2008). *Heritage Language Education: A New Field Emerging*. Mahwah, NJ : Lawrence Erlbaum Associates.
- [8] 平成 21 年度科学研究費補助金（基盤研究（B））課題番号：（21320096）「継承日本語教育に関する文献のデータベース化と専門家養成」（研究代表者 中島和子）。

付録

森下 淳也 > 継承語教育文献データベース > 著書・論文編集システム > データ追加 検索に戻る

著書・論文編集システム・データ入力

項目	入力領域	説明
タイトル（原文）	<input type="text"/>	タイトルを原文で入力して下さい。タイトル中の年号その他数字、英単語は半角でお願いします。
タイトル（英文又は和文）	<input type="text"/>	日本語・英語の場合、英文タイトルがあれば記入、日本語、英語以外の言語のタイトルの場合は英文または和文タイトルを入れて下さい。数字は半角で願います。
著者・編者名	<input type="text"/>	複数の場合、著者と著者の間は","または"/"で区切って下さい。姓と名の間は空白を入れて下さい。日本語の場合は姓が先、英語名の場合は名が先です。
発行年	<input type="text"/>	数字は半角でお願いします。
出版社・発行元	<input type="text"/>	
出版地	<input type="text"/>	
掲載書・掲載誌	<input type="text"/>	
巻・号	<input type="text"/>	数字は半角でお願いします。
ページ数	<input type="text"/>	論文のみ。数字は半角でお願いします。
版数	<input type="radio"/> 初版 <input type="radio"/> 2 版 <input type="radio"/> 3 版 <input type="radio"/> 不明 <input type="radio"/> その他 → <input type="text"/>	書籍のみ。入力選択肢から1つを選択して下さい。その他の場合、記述願います。

図 1. 著書論文システムの入力画面設計（部分）

対象言語	<input type="checkbox"/> 言語の特定なし <input type="checkbox"/> ポルトガル語 <input type="checkbox"/> スペイン語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 中国語 <input type="checkbox"/> ベトナム語 <input type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 韓国語 <input type="checkbox"/> その他 → その他の言語: <input type="text"/>	対象となる言語を選択して下さい。複数回答できます。その他の場合にはその言語を記述願います。
備考	<input type="radio"/> 全欄完成 <input type="radio"/> 概要とキーワード以外ほぼ完成 <input type="radio"/> 一部調査中 <input type="text"/>	このデータの完成されている度合いを、全欄完成/概要とキーワード以外ほぼ完成/一部調査中の3つの中から選んで下さい。気づいた事柄を自由に書き入れてください。

[森下 淳也 > 継承語教育文献データベース > 著書・論文編集システム > データ追加](#)
[検索に戻る](#)

図2. 対象言語と備考の入力欄 (図1の設計画面よりの抜粋)

	<input type="text"/>
著者・編者名	<input type="text" value="中"/> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;"> 中井 美穂 中島 和子 中嶋 知子 中森 明菜 中山 律子 </div>
発行年	<input type="text"/>

図3. 前方一致のインクリメンタル・サーチによる著者名入力の支援